



株式会社フリークアウト・ホールディングス
(東証マザーズ：6094)

2021年9月期 第3四半期
決算説明資料

2021年8月13日

Section1 エグゼクティブサマリ

Section2 2021年9月期 第3四半期決算の概要

Section3 事業の進捗（広告事業）

Section4 事業の進捗（海外グループ事業）

Section1 エグゼクティブサマリ

売上高（73.9億円）、EBITDA（3.2億円）ともに第3四半期として過去最高水準を達成。

第3四半期までの累計では、売上 219億円、EBITDA 11.8億円、営業利益 8.6億円、経常利益 10.3億円、親会社株主に帰属する当期純利益 7.5億円と期初計画を大幅に超過して推移。

国内広告事業は、繁忙期である前四半期の反動を受けつつも、ほぼ想定通りの売上高26.8億円、EBITDA1.5億円を着地。

海外事業は、引き続き米国Playwireの大幅成長により売上高44.1億円、EBITDA3.0億円を達成。

投資事業は、有価証券の売却及び有価証券評価損の計上により売上 4.8億円、EBITDA 1.9億円。

今後も有価証券の売却・評価損計上を通じた資産の入替及びバランスシートの改善に努める。

上記の結果及び第4四半期の見通しを踏まえ、通期業績予想の上方修正を実施。

売上高290億円（前予想比+20億円）、EBITDA12.5億円(前予想比+6.5億円)、
営業利益9億円(前予想比+7億円)、経常利益10億円(前予想比+9億円、直近の円高傾向等を加味)。

Section2 2021年9月期 第3四半期決算の概要

連結売上高

73.9億円 (前年Q比+23.1億円 / 直前Q比+5.7億円)

(前年Q比・直前Q比)

- ・ (国内) 最も厳しい四半期であるものの、後述のPoetsの影響を除いて堅調に推移
- ・ (海外) 一部拠点で新型コロナウイルスの影響を受けつつも、Playwireを中心に順調に成長

連結EBITDA

3.2億円 (前年Q比+3.9億円 / 直前Q比+0.1億円)

(前年Q比・直前Q比)

- ・ 上記に加えて、投資事業で+1.9億円を計上

連結経常利益

1.8億円 (前年Q比+5.3億円 / 直前Q比▲3.3億円)

(前年Q比・直前Q比)

- ・ EBITDAと同様の要因に加えて、為替差損(▲0.2億円)等を計上

- ・ 営業利益：**2.1億円**
- ・ 親会社株主に帰属する当期純利益：**▲0.7億円**

単位:億円

		売上	EBITDA	営利	経常	最終利益
実績	①第3四半期実績	73.9	3.2	2.1	1.8	▲0.7
特殊 要因	②営業投資有価証券売却益	4.8	4.8	4.8	4.8	3.4 _{※2}
	③営業投資有価証券評価損		▲2.9	▲2.9	▲2.9	▲2.9
	④Playwire経営陣への委任期間延長に伴うオプション変更料		▲0.9	▲0.9	▲0.9	▲0.9
	⑤IM社デリバティブ評価損 _{※1}					▲0.8 _{※2}
⑥ 正常収益力 (① - (②~⑤))		69.1	2.3	1.1	0.9	0.6

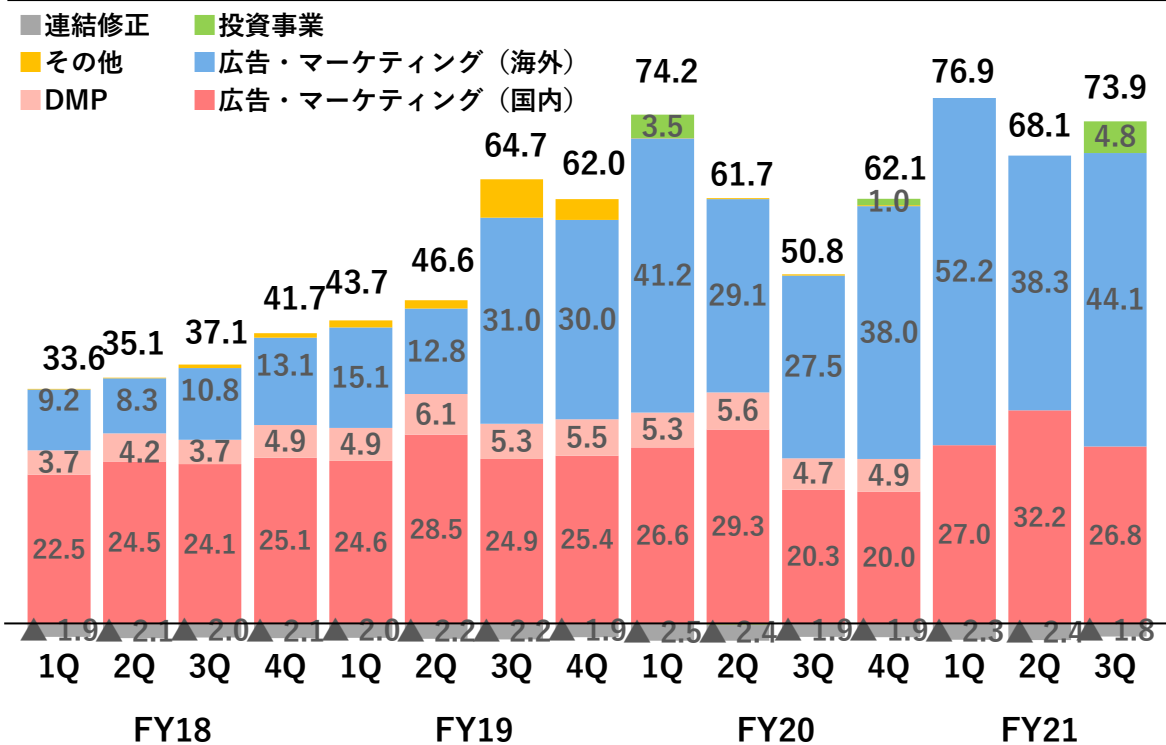
※1 IM社=インティメート・マージャー社。なお、当第3四半期にてデリバティブ取引による影響は終了

※2 実効税率30%で算出

- ・ [国内] 季節変動の影響受けるも、動画・Connected TV領域等が堅調で、EBITDAも黒字で着地
- ・ [海外] 米国Playwireを中心に、引き続き順調に成長
- ・ [本社コスト] Playwire経営陣への委任期間延長に伴うオプション変更料として、0.9億円を計上

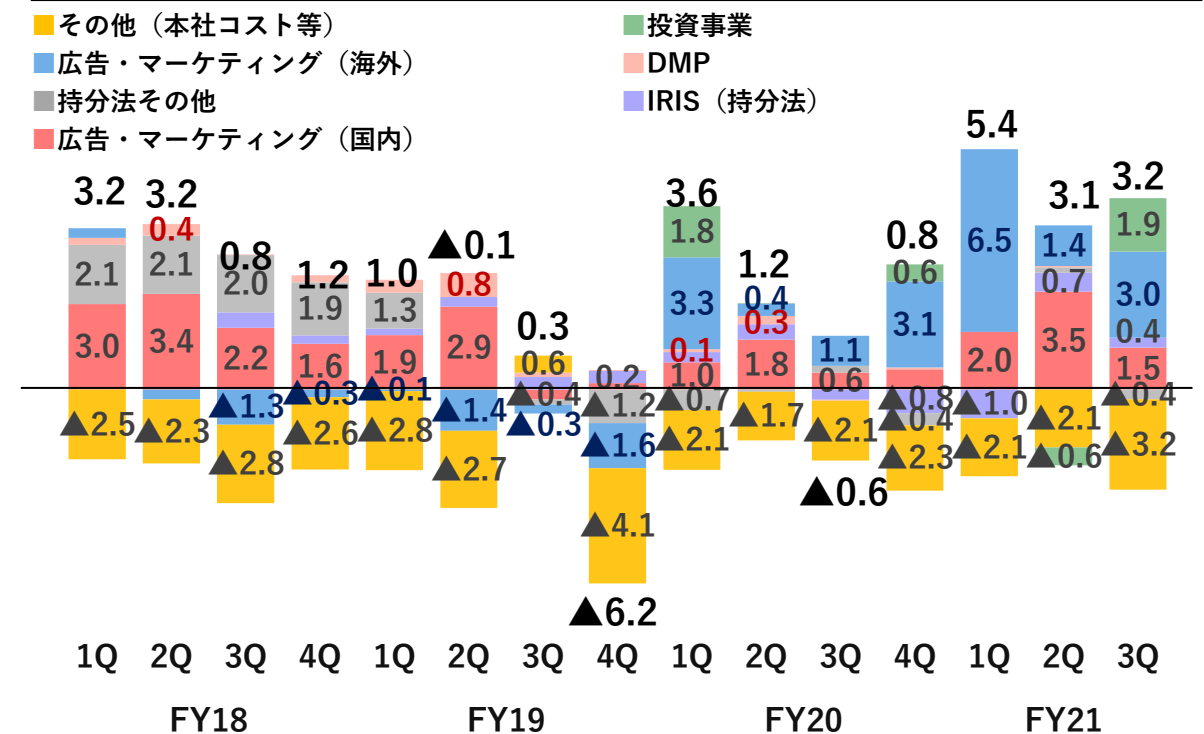
売上

単位:億円



EBITDA

単位:億円



- 各指標について、大幅な上方修正を実施（売上290億、EBITDA12.5億、営利9億、経常10億）
- 国内外事業の実績が、フォーカス領域中心に引き続き当初予算を大きく上回り順調であることから、プライバシー関連規制や新型コロナウイルスの影響等を十分に吸収できると判断
- 第4四半期も引き続き事業は順調に進捗しつつも、持分法適用関連会社の先行投資や足元の円高傾向の影響等も加味して、修正後の業績予想額を決定

単位:億円

	3Q単体			3Q累計			通期		
	当初予算	実績	差異	当初予算	実績	差異	当初予算	修正予想	差異
売上高	64.2	73.9	+9.7	194.3	218.9	+24.5	270.0	290.0	+20.0
EBITDA	0.6	3.2	+2.6	2.8	11.8	+9.0	6.0	12.5	+6.5
営業利益	▲0.5	2.1	+2.6	0.4	8.6	+8.2	2.0	9.0	+7.0
経常利益	▲0.9	1.8	+2.7	▲1.2	10.3	+11.5	1.0	10.0	+9.0
最終利益	非開示	▲0.7	-	非開示	7.5	-	非開示	非開示	-

- 中核グループ会社（株式会社フリークアウト①、Playwire②）が想定を上回るスピードで順調に成長し、予算を大幅超過
- APACを中心に新型コロナウイルスの影響を受けるも、中国法人、本田商事、adGeekなどの各社が当初予算を上回り高成長を実現（④その他2.3億円の主な内訳）

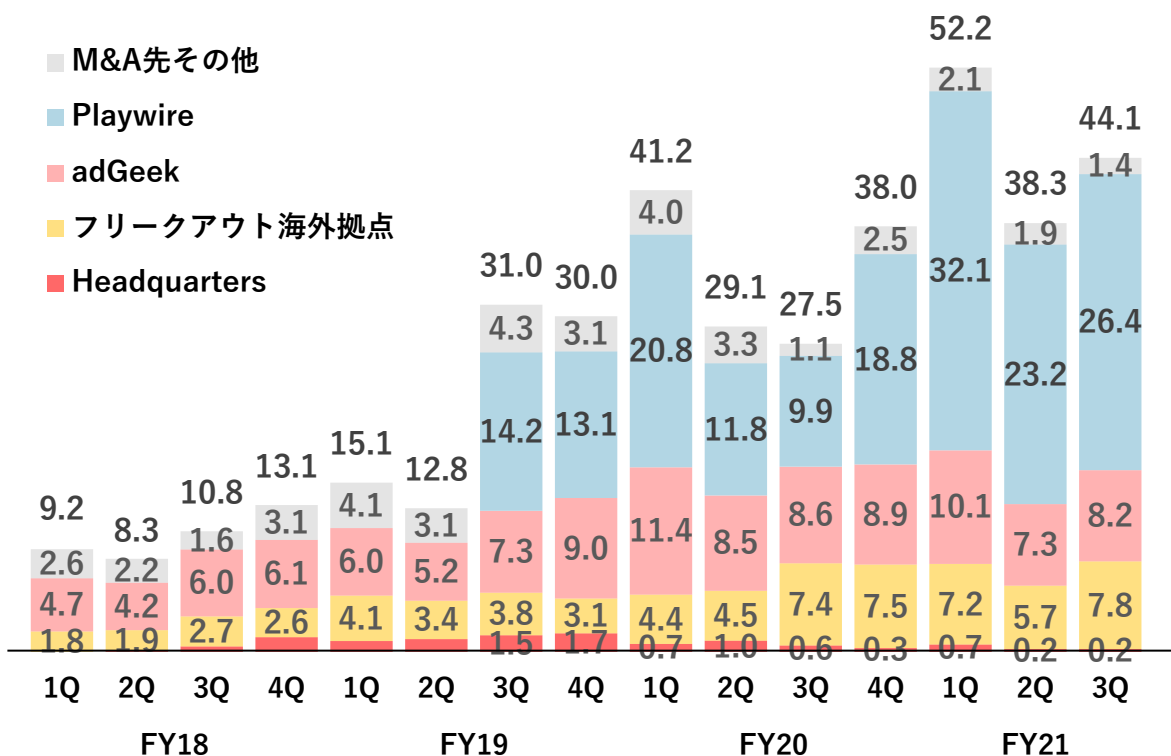
単位:億円

	EBITDA
予算超過要因（3Q累計）	+9.0
①株式会社フリークアウトの回復・成長	+2.2
②Playwireの成長	+3.2
③有価証券売却益・評価損差額	+1.3
④その他	+2.3

- 米国Playwireは売上・EBITDAともに前年同期比で大幅成長
- インドネシア法人や台湾法人が新型コロナウイルスの影響を受け苦戦するも、中国法人が業績を牽引し、フリークアウト海外拠点全体ではEBITDA黒字で着地

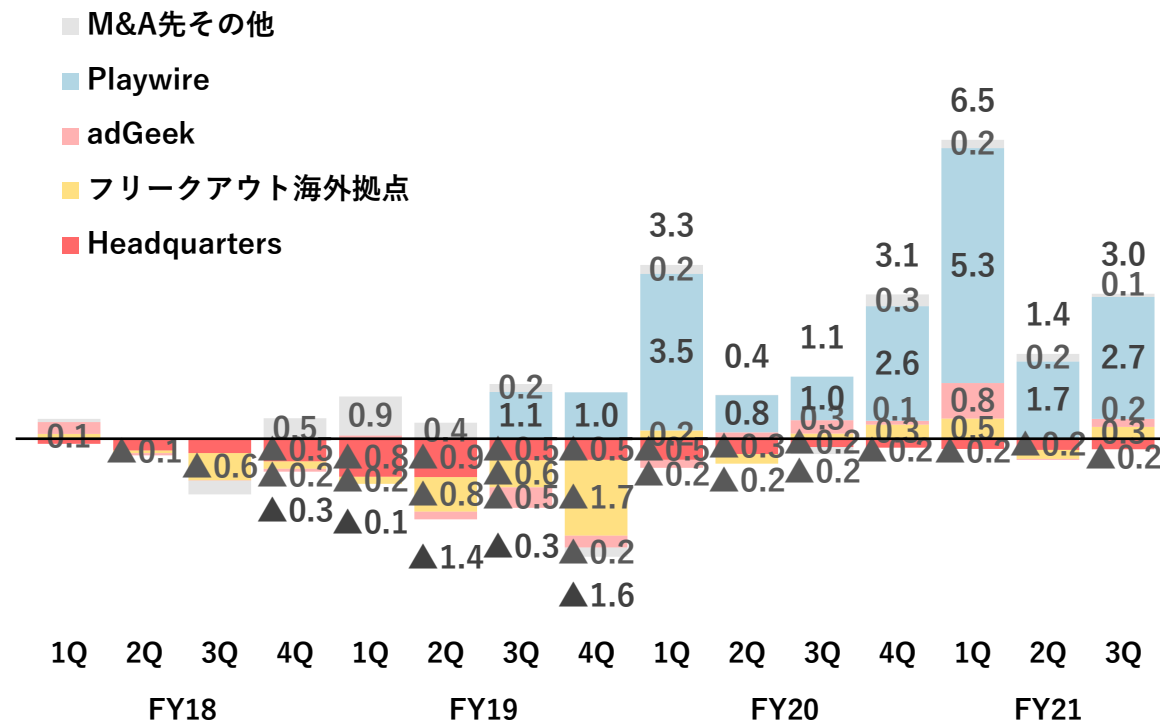
売上

単位:億円



EBITDA

単位:億円



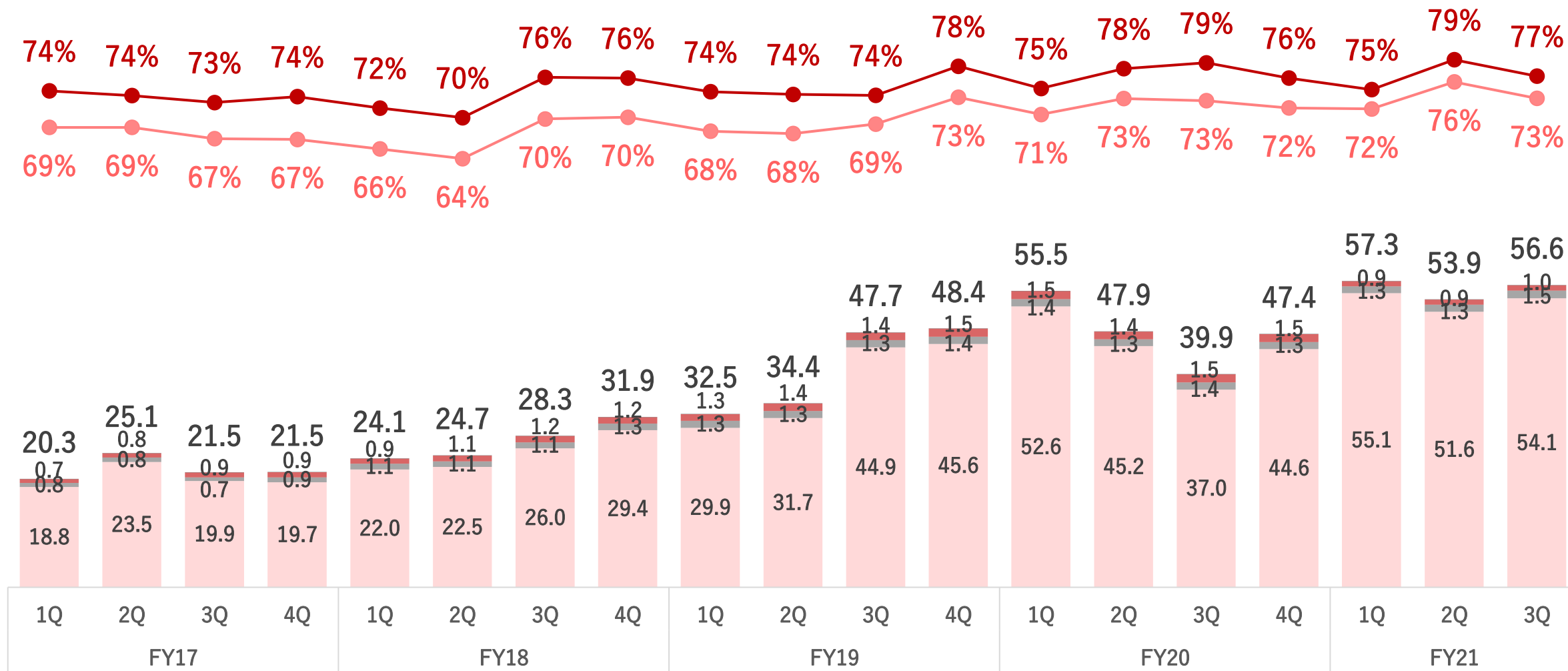
単位:百万円

	FY20				FY21		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
営業利益	302	▲33	▲157	99	545	109	208
持分法投資利益	▲36	51	▲14	▲141	▲96	103	10
のれん償却費	42	41	43	39	33	34	34
減価償却費	56	65	65	88	63	67	70
EBITDA	364	125	▲62	85	544	313	323
のれん償却費	▲42	▲41	▲43	▲39	▲33	▲34	▲34
減価償却費	▲56	▲65	▲65	▲88	▲63	▲67	▲70
その他（為替差損益等）	62	▲80	▲171	▲104	▲110	299	▲35
経常利益	329	▲62	▲341	▲146	338	510	184

連結売上原価の推移

単位:億円

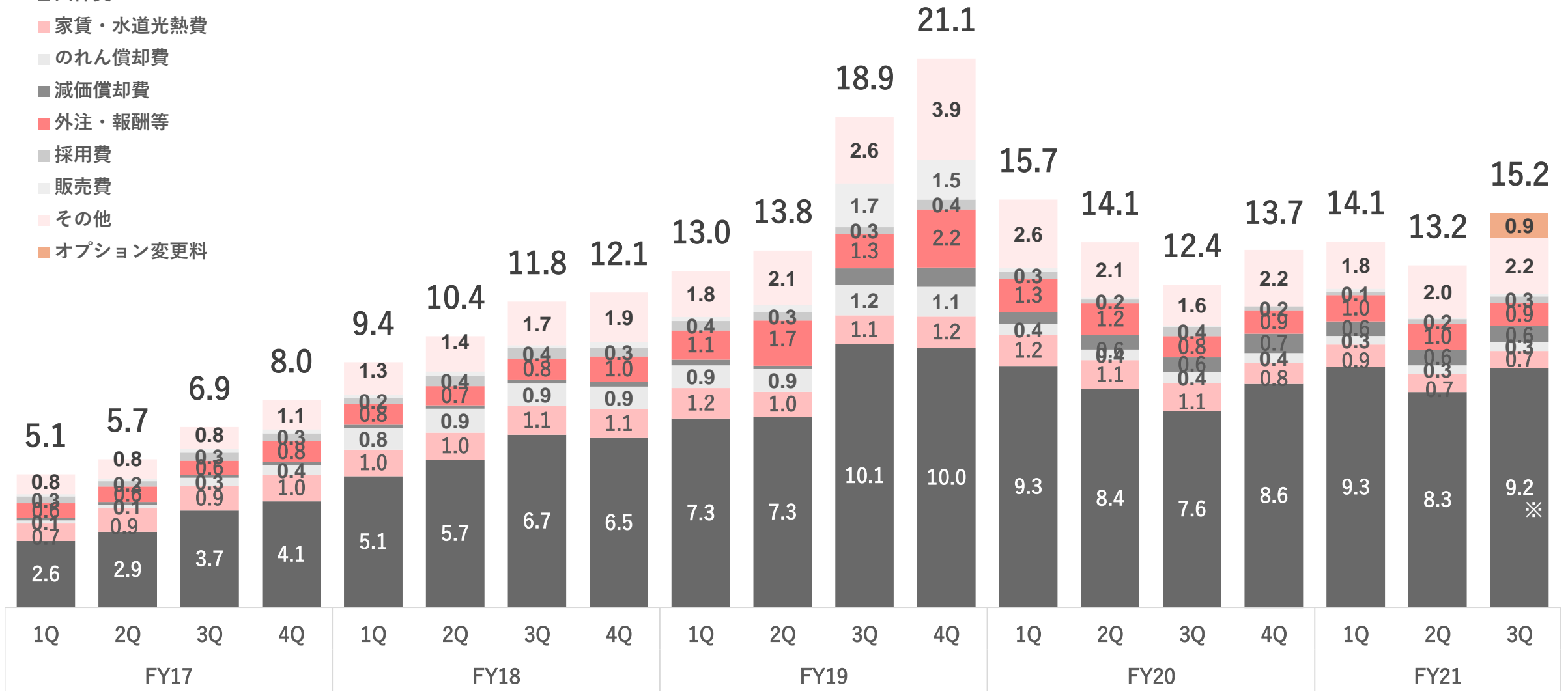
■ 変動費
 ■ 開発人件費
 ■ サーバー関連費
 ■ その他
 ● 売上原価率
 ● 変動費率



連結販売管理費の推移

単位:億円

- 人件費
- 家賃・水道光熱費
- のれん償却費
- 減価償却費
- 外注・報酬等
- 採用費
- 販売費
- その他
- オプション変更料



※上期の業績好調を反映し、賞与支給増+1.0億円

【参考情報】 人員数推移（連結）

単位:人

	FY20	FY20	FY20	FY20	FY21	FY21	FY21
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
国内広告事業	169	167	169	167	155	163	166
DMP	43	39	39	42	—	—	—
フリークアウト海外拠点	90	91	92	93	94	93	92
海外グループ会社	321	248	229	226	203	206	221 ※
その他	31	31	46	42	44	38	41
グループ合計	654	576	575	570	496	500	520

※主にPlaywireの成長投資のための増員

連結売上高

218.9億円 (前年比+32.2億円 +17.2%)

(前年比)

- ・ 今期連結から外れた子会社及び投資事業の影響を除外した場合、28.7%成長

連結EBITDA

11.8億円 (前年比+7.5億円 +176.8%)

(前年比)

- ・ 同上の影響を除外した場合、406.8%成長

連結経常利益

10.3億円 (前年比+11.1億円)

(前年比)

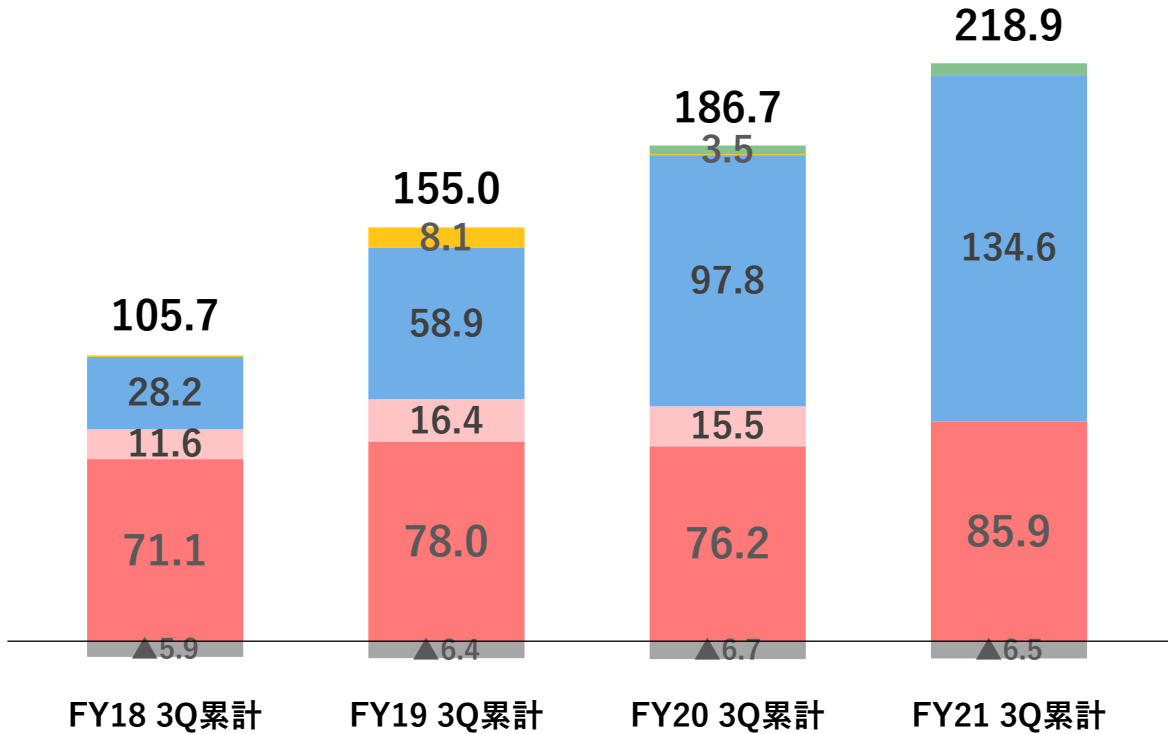
- ・ EBITDAと同様の要因に加え、為替影響等で増益

- ・ 営業利益：**8.6億円**
- ・ 親会社株主に帰属する当期純利益：**7.5億円**

売上

単位:億円

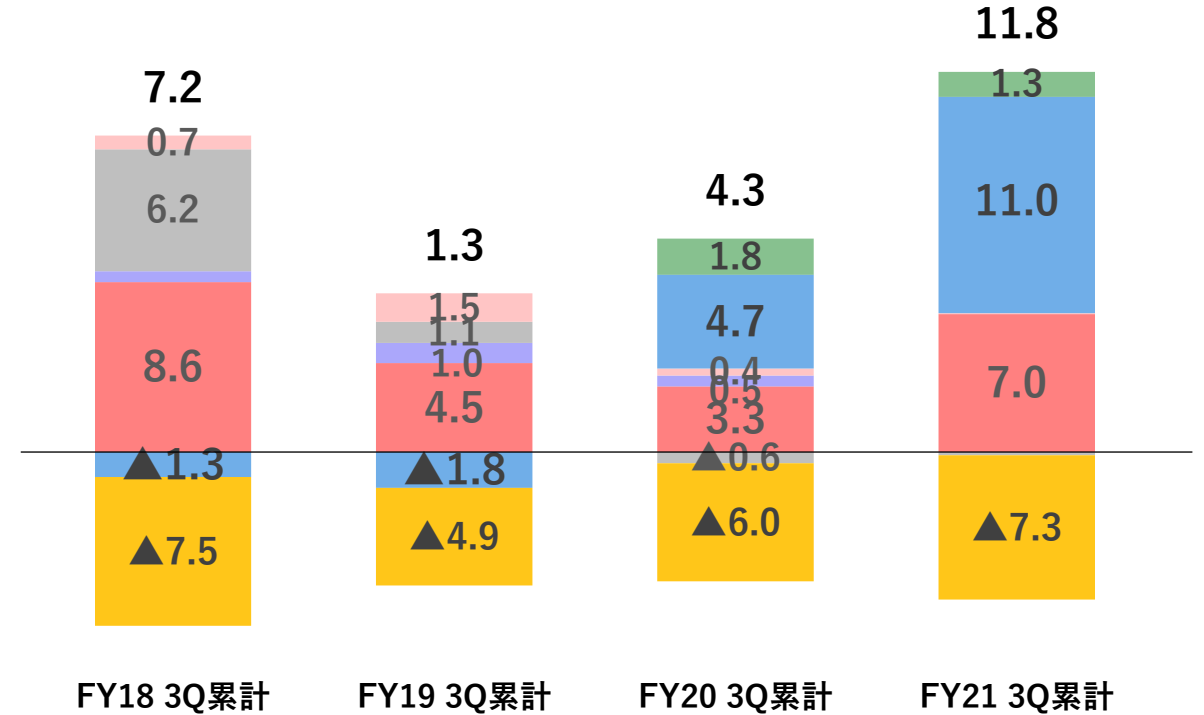
- 連結修正
- その他(HDコスト等)
- DMP
- 投資事業
- 広告マーケティング(海外)
- 広告マーケティング(国内)



EBITDA

単位:億円

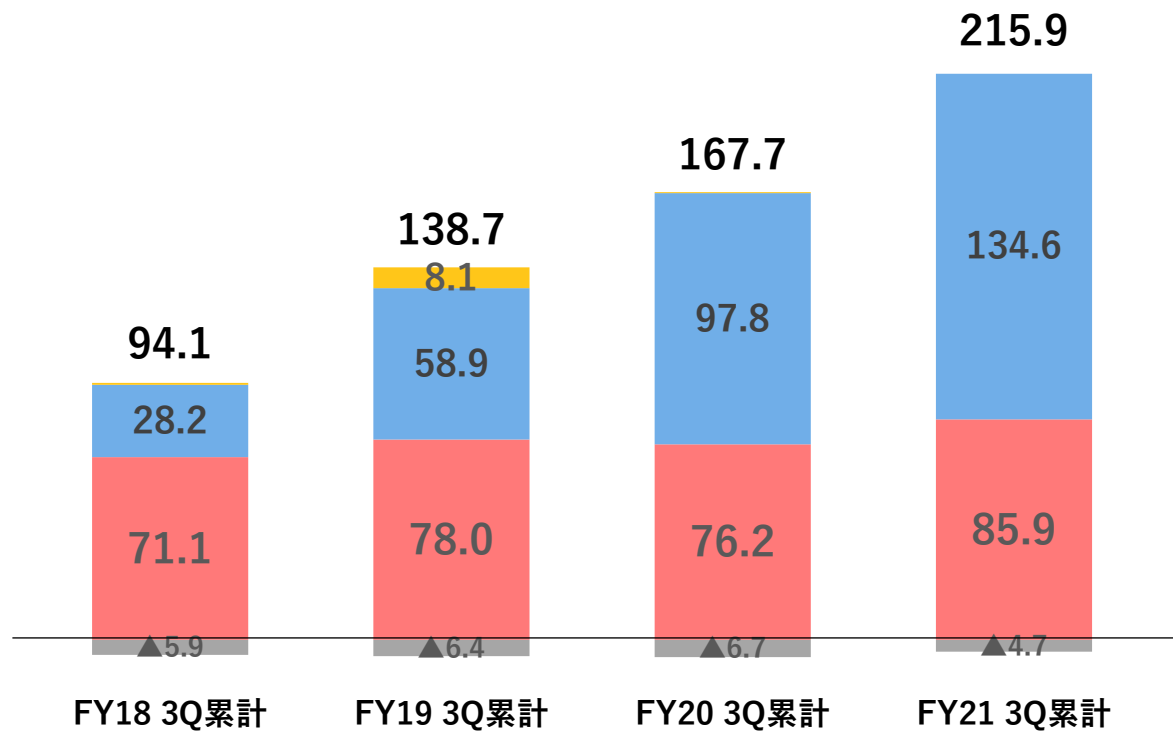
- 投資事業
- 広告マーケティング (海外)
- 持分法その他
- 広告マーケティング (国内)
- その他(本社コスト等)
- DMP
- 持分法IRIS



売上

単位:億円

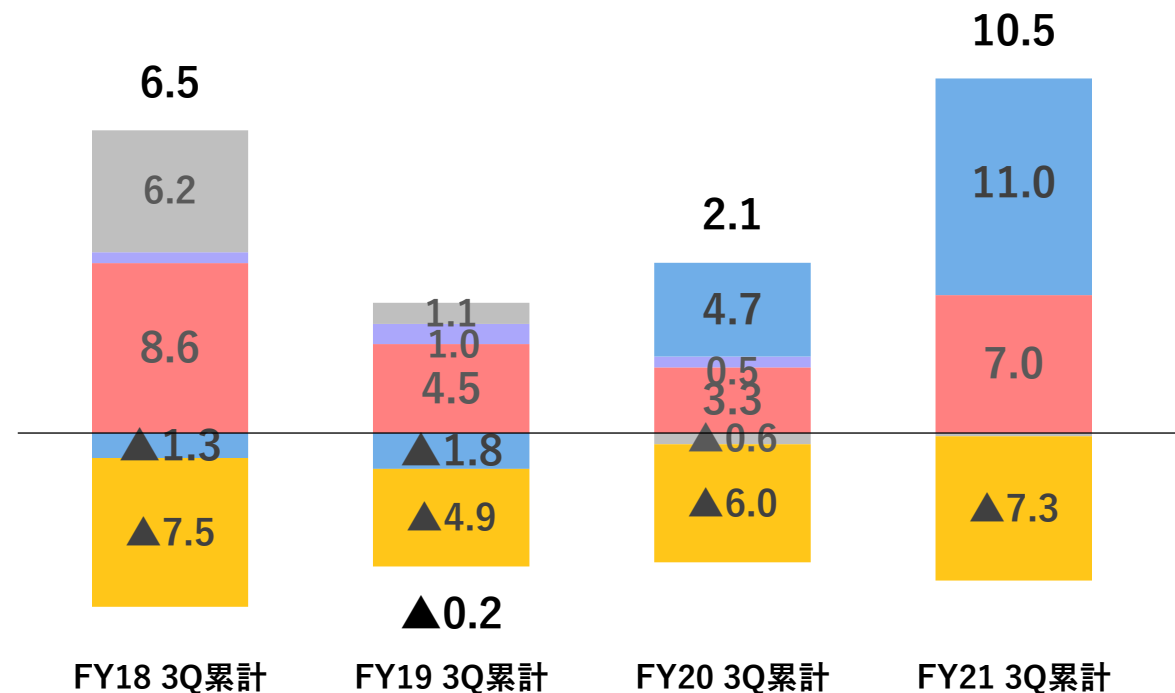
- 連結修正
- その他(HDコスト等)
- 広告マーケティング(海外)
- 広告マーケティング(国内)



EBITDA

単位:億円

- その他(本社コスト等)
- 持分法その他
- 広告マーケティング(国内)
- 広告マーケティング(海外)
- 持分法IRIS

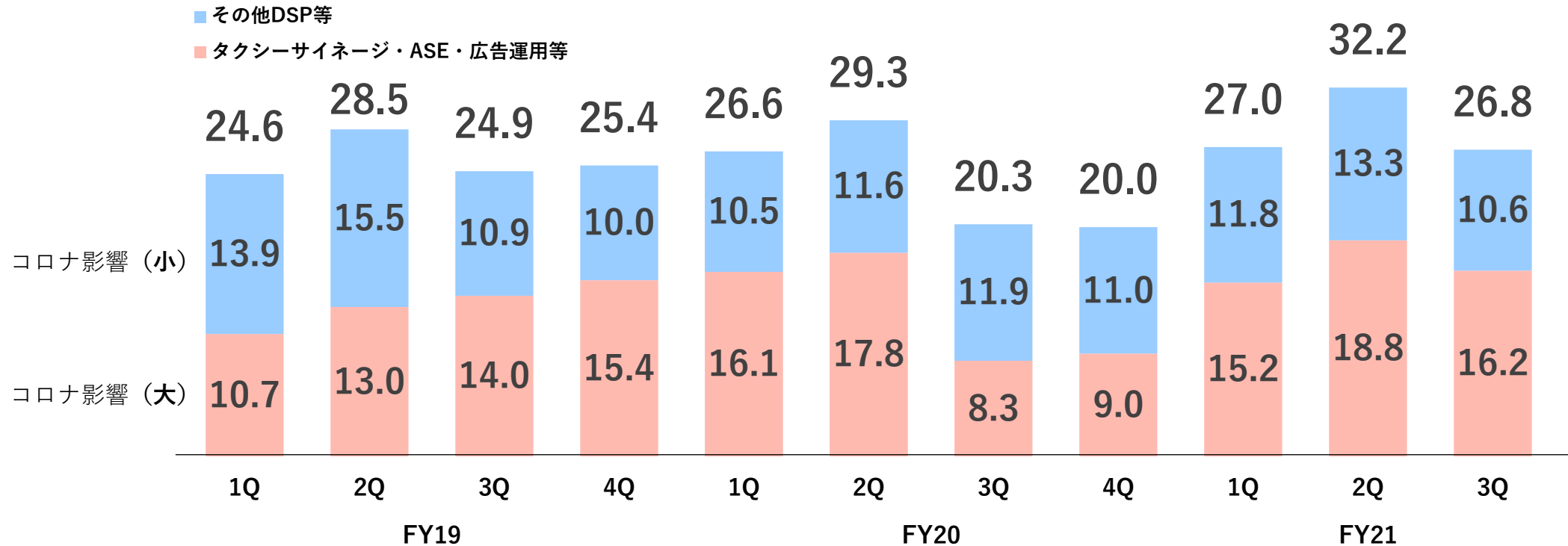


Section3 事業の進捗（広告事業）

- 緊急事態宣言およびIDFAのオプトイン化による影響は、比較的軽微なまま堅調に推移
- 新型コロナウイルスの影響が特に大きいタクシーサイネージ事業も、想定内で推移
- Poetsは、アドネットワークマーケット全体の動向及び当社内審査基準の更なる厳格化により売上が大幅に減少

広告・マーケティング（国内）売上

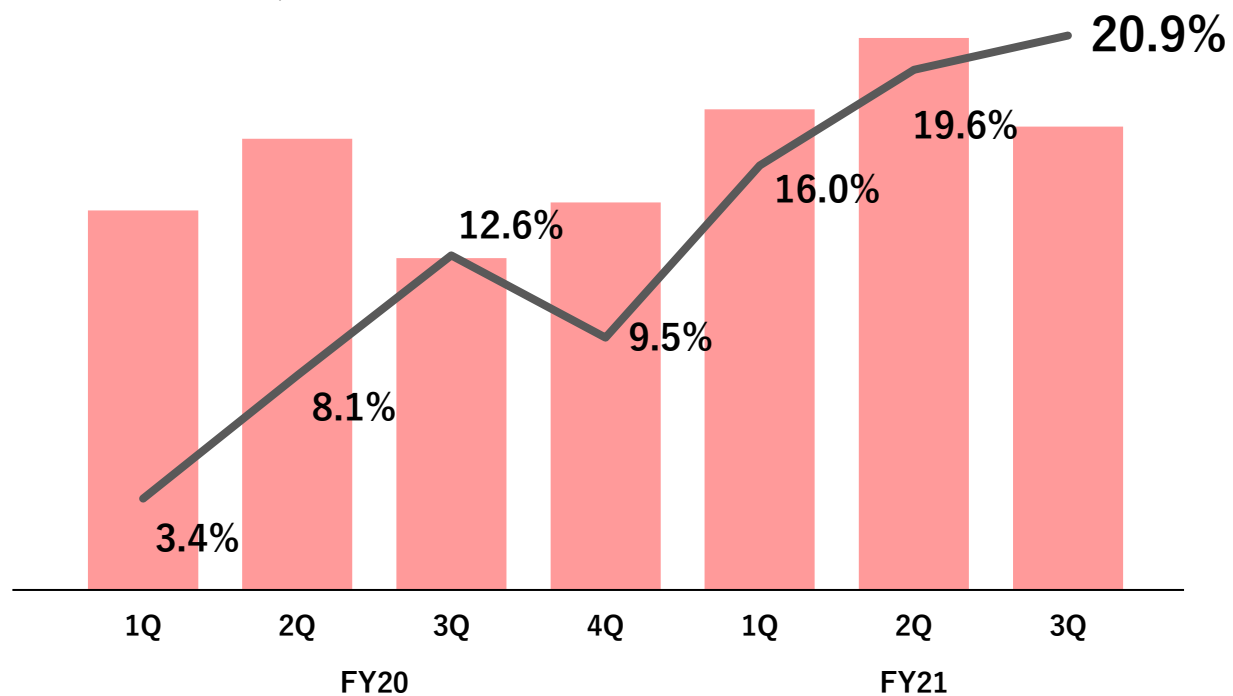
単位:億円



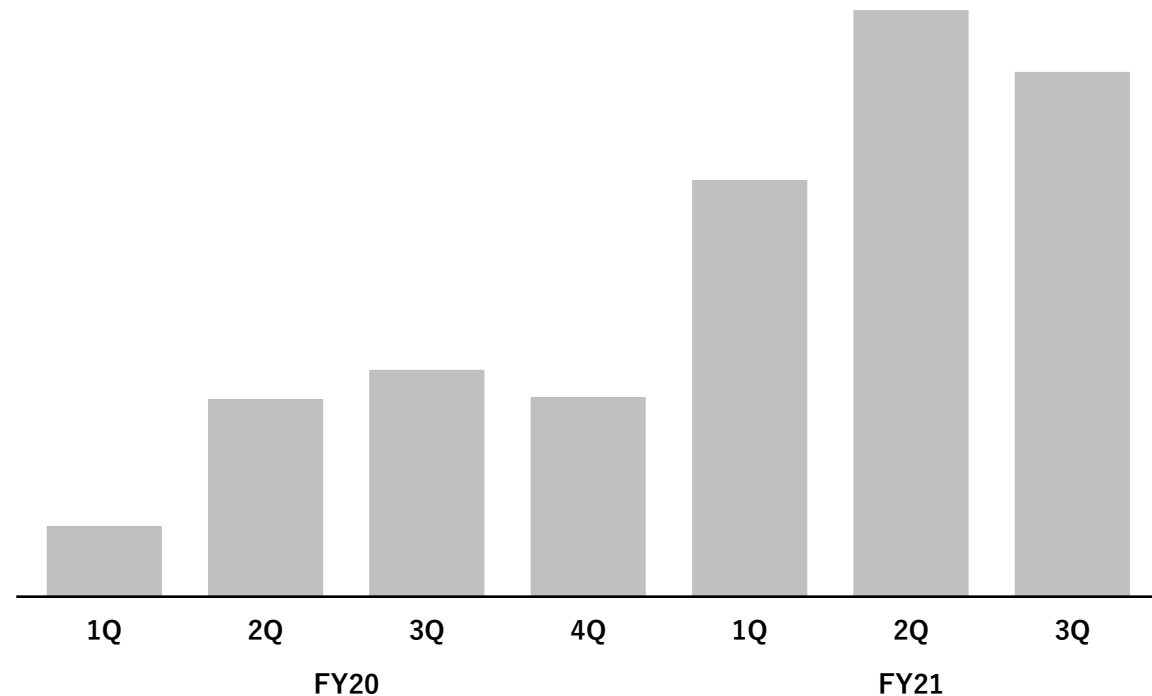
- 季節要因（主に3月の広告需要の反動）により、DSPの全体売上は減少
- 動画・Connected TV広告の売上は堅調に推移
- 動画比率は20%を超えて順調に推移

DSP売上

— 動画広告比率



DSP動画・Connected TV広告売上

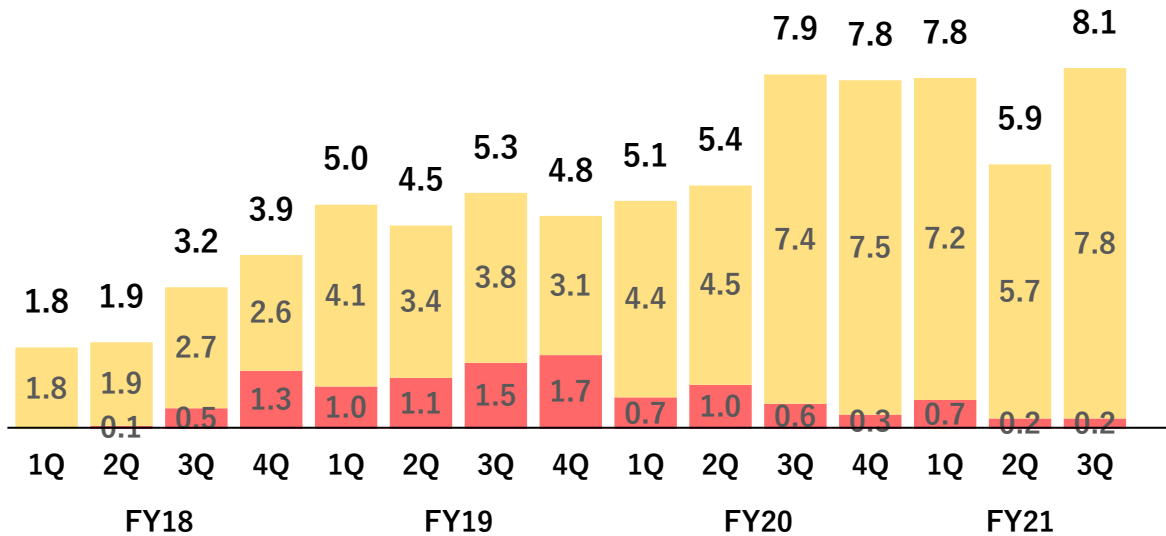


- 中国法人が順調に成長したこと等により、過去最高の売上を達成
- 新型コロナウイルスの影響が大きい中、EBITDAは全体で黒字を達成
- 好調であった台湾法人が新型コロナウイルスの影響により、大きく売上、EBITDA減少

売上

単位:億円

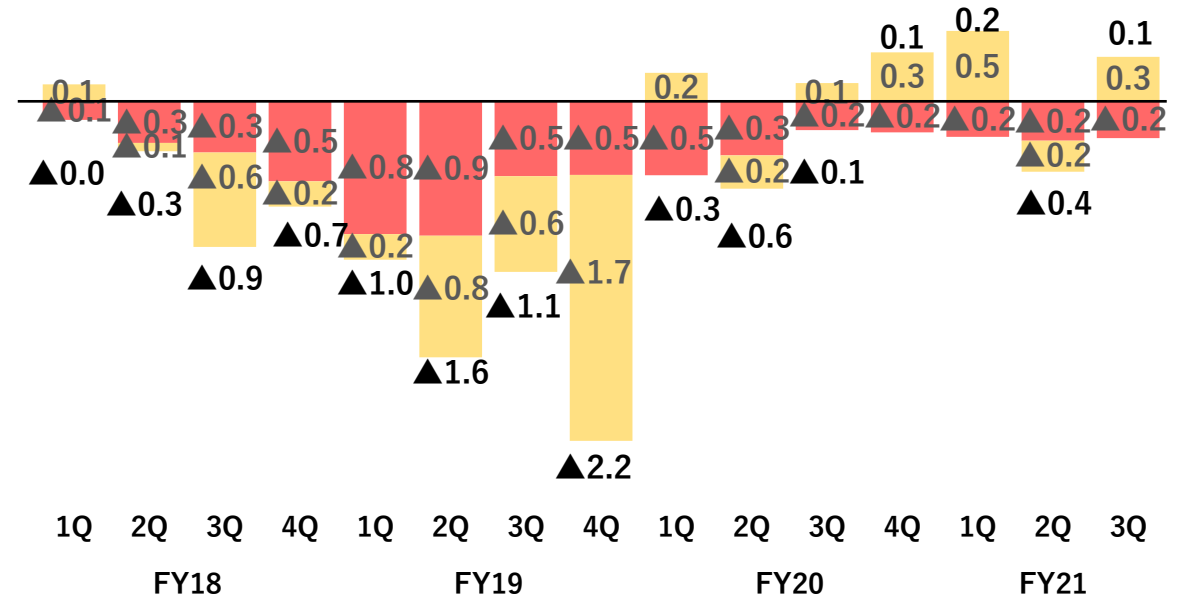
■ フリークアウト海外拠点
■ Headquarters



EBITDA

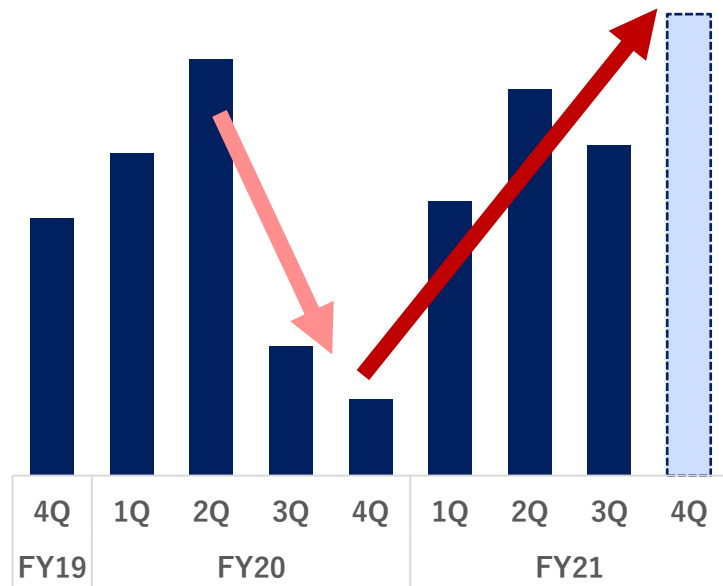
単位:億円

■ フリークアウト海外拠点
■ Headquarters



- 緊急事態宣言の影響も限定的で業績は堅調に推移。第4四半期は過去最高レベルの売上見通し。
- オリジナルコンテンツ展開と広告審査の厳格化により、メディアとしての更なる品質向上を図る。

IRIS売上推移



新型コロナ影響を脱し、再び成長軌道に

メディア品質向上① オリジナルコンテンツの展開

『ロンブーチャンネル』

- ロンドンブーツ1号2号のYouTube番組のスピンオフ企画。
- 広告主とのタイアップメニューとしての販売も開始しており、ロンドンブーツ1号2号の田村淳さんを起用した30秒のインタビュー動画を制作、タクシー車内で放映することが可能。

メディア品質向上② 広告審査の厳格化

- 業種、商材の可否基準を通常の屋外広告媒体よりも厳格に。
- 更にクリエイティブも厳しい基準を設定。



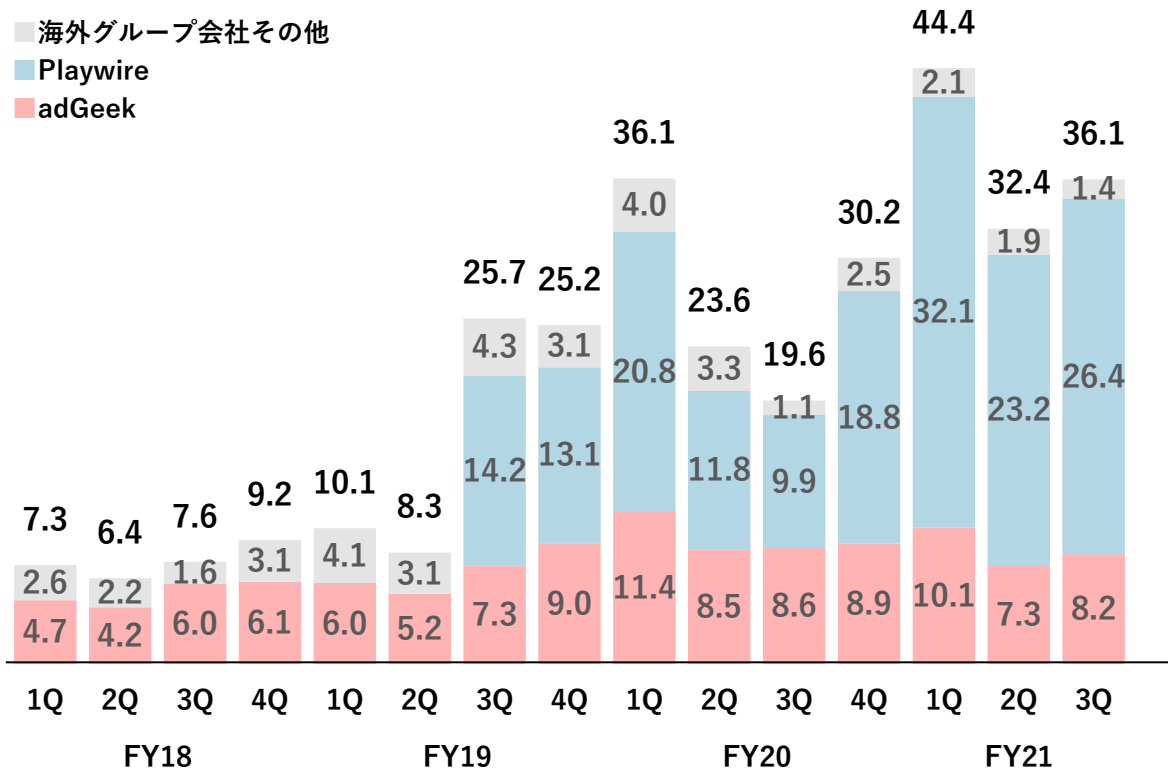
【乗客】心地良い映像視聴体験
【広告主】ブランド広告も安心して掲載可能

Section4 事業の進捗（海外グループ事業）

- [米国]Playwireは計画を上回る成長を継続。体制強化も順調に進捗。
- [APAC] 各国で新型コロナウイルスの影響が拡大。タイのDigitivは苦戦が継続し、のれん減損を実施（特別損失約20百万円）

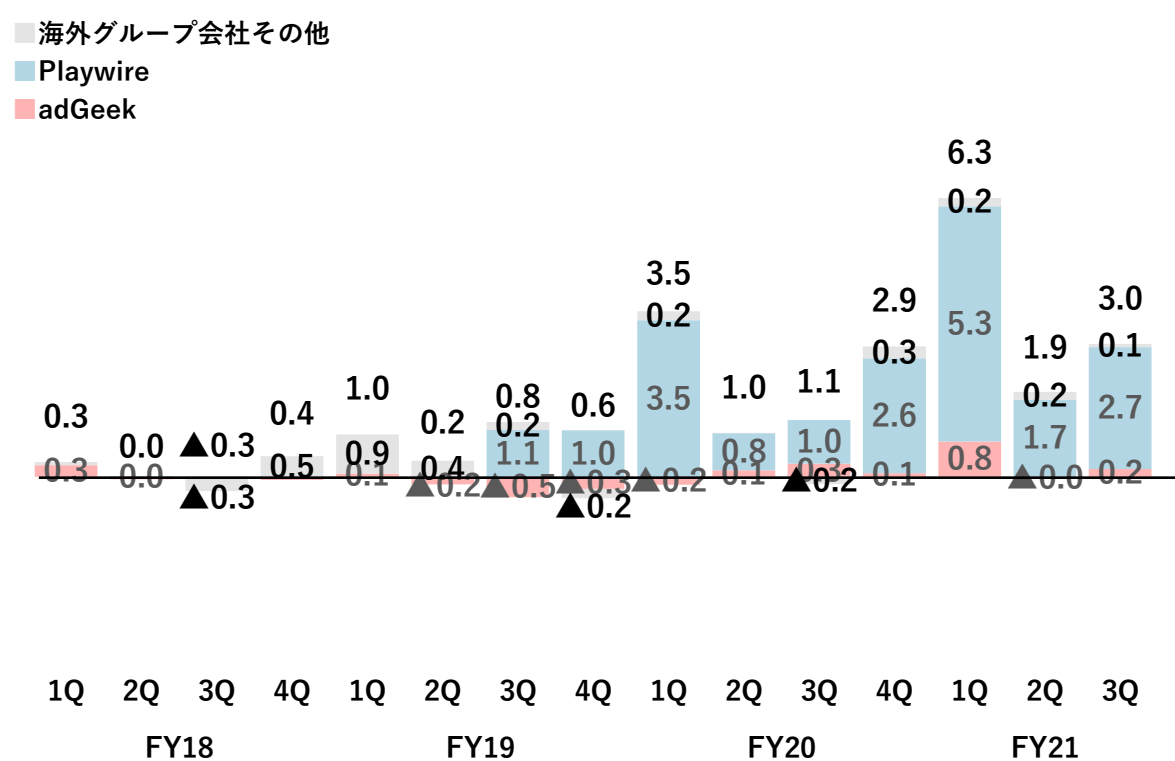
売上

単位:億円



EBITDA

単位:億円



Appendix 1

会社概要

会社名	株式会社フリークアウト・ホールディングス		
設立	2010年10月1日		
資本金	30億9,368万円		
所在地	〒106-0032 東京都港区六本木6-3-1 六本木ヒルズ クロスポイント		
役員構成	代表取締役社長 Global CEO	本田 謙	取締役（常勤監査等委員） 柳澤 文夫
	取締役 CFO	永井 秀輔	取締役（監査等委員） 高田 祐史
	取締役 広告事業管掌	時吉 啓司	取締役（監査等委員） 松橋 雅之
	取締役 海外グループ管掌	竹内 誠	
事業内容	グループ会社株式保有によるグループ経営戦略の策定・管理		
発行済株数	17,335,184株		
主要株主※	本田 謙		35.13%
	伊藤忠商事株式会社		16.75%
	YJ1号投資事業組合		3.37%
	BBH（LUX） FOR FIDELITY FUNDS PACIFIC FUND		3.16%
	株式会社日本カストディ銀行		3.05%

※2021年3月末時点の主要株主の状況を記載

Appendix 2

業績補足資料

（単位:百万円）

	FY21 3Q	FY20 3Q	前年Q比	FY21 2Q	直前Q比
変動費	5,412 73.3%	3,703 72.9%	46.2%	5,160 75.7%	4.9%
開発人件費	146 2.0%	136 2.7%	7.7%	133 2.0%	9.9%
サーバー関連費	99 1.3%	152 3.0%	▲34.6%	94 1.4%	5.2%
その他	0 0.0%	1 0.0%	▲51.9%	0 0.0%	182.0%
売上原価計	5,657 76.6%	3,991 78.6%	41.8%	5,387 79.1%	5.0%

※金額の下に記載している%は対売上高比

連結販管費（四半期会計期間）

（単位:百万円）

	FY21 3Q	FY20 3Q	前年Q比	FY21 2Q	直前Q比
人件費	921 12.5%	758 14.9%	21.5%	830 12.2%	10.9%
家賃・水道光熱費	68 0.9%	106 2.1%	▲36.3%	69 1.0%	▲2.0%
のれん償却費	34 0.5%	43 0.9%	▲21.0%	34 0.5%	1.3%
減価償却費	62 0.8%	56 1.1%	11.4%	60 0.9%	4.1%
外注・報酬等	88 1.2%	82 1.6%	7.5%	100 1.5%	▲11.8%
採用費	26 0.4%	35 0.7%	▲26.8%	19 0.3%	38.6%
販売費	9 0.1%	6 0.1%	56.7%	4 0.1%	137.2%
その他	312 4.2%	158 3.1%	97.7%	203 3.0%	54.1%
販管費計	1,520 20.6%	1,244 24.5%	22.2%	1,318 19.3%	15.4%

※金額の下に記載している%は対売上高比

本資料の内容ならびに説明についてご質問等がございましたら、下記までお問い合わせください。

お問い合わせ先

経営企画室

電話番号（代表番号）：03-6721-1740

お問い合わせフォーム：<https://www.fout.co.jp/contact/company/>



FreakOut
Holdings

Give People Work That Requires A Person.